

令和2年
3月15日
発行



愛媛県立中央病院

愛媛県立中央病院広報誌

いはるびよー

院長挨拶



令和初めての新年は、穏やかな正月で始める事ができました。1月は暖かな日が続き、初雪の観測は1月31日と、1891年の統計開始以来最も遅い冬となりました。一方、コロナウイルスの感染は世界中に広がり、今年の7月から始まる東京オリンピックまでに終息できるか心配されます。

愛媛県立中央病院は、新病院での診療を開始して今年で7年目を迎えました。病院の中庭に植樹したしだれ桜が、少しずつ花を咲かせるようになってきました。この春も、どのように咲くか注目しています。

新病院の構想当時は、救急医療を必要とする患者様が増加し、集中治療室の病室は多数必要と考えられて建築されました。しかし、この10年間で病院の機能分化と早期リハビリテーションの開始が進み、超急性期医療を当院で提供した患者様が自宅へ帰れるように、地域の医療機関へ転院する形へ変化しました。これからも病院の機能分化は、さらに進むと考えられます。「かかりつけ医」という言葉が生まれた当初は、患者様に転院を伝える説明に苦労しましたが、最近はご自分に合ったかかりつけ医を見つける方が増えており、短時間の説明で済むようになりました。かかりつけ医は、すぐに相談できる身近な存在となります。ぜひ、ご自分に合ったかかりつけ医を見つけて下さい。

また、昨年の4月に始まった働き方改革は、4年後には医師もすべての要件が適用されます。これまで医師は、長時間労働が当たり前でしたが、過労死の問題やワークライフバランスへの取り組みから、4年後には医師の働き方改革が実施されます。年間

5日間の有給休暇取得は、本年より必須となります。昨年1年間の当院医師の有給休暇の平均取得日数は、4.6日しかありません。休暇が取得できるように、各診療科の医師を増やしたいのですが、どの病院でも医師が不足している現状では増やすことは簡単ではありません。また、それぞれの診療領域において専門的な医療を提供する専門医や指導医の数は限られており、一概に医師の人数を増やすだけでは一定レベル以上の医療を提供することは困難です。患者様皆様にお願いしたい事は、外来受診の際には、できる限り、血圧や体温、通常と変わった事を記録したうえで受診していただくことです。疑問や不安に思っていることをメモしておくことでスムーズに診察を受けることができます。また、入院患者様や通院患者様の病状説明は、可能な限り勤務時間内にさせていただきます。

最後に、私はこの3月で定年退職となります。新病院オープン前から8年間、病院長として、愛媛県立中央病院の安全な医療の提供と医療の質の向上を目指して務めて参りました。職員一同の頑張りと患者様およびご家族の皆様のご支援により、医療安全への取り組み姿勢や医療の質は向上しています。しかし、どちらも常に努力し続ける事が必要です。これからも、ご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

愛媛県立中央病院長 西村 誠明



【発行】愛媛県立中央病院 松山市春日町83番地 TEL : 089-947-1111



ホームページは
こちらきゃん!



TQMサークル活動について



“TQM”ってご存知ですか？聞きなれない言葉かもしれません。TQMとはTotal Quality Managementの略で、「総合的品質管理」と訳されています。これは、広く産業界で行われている組織の管理手法です。当院では「より良い医療を提供するため」、2012年からTQMに基づいた「改善活動」を開始し、様々な取り組みを行っています。その一つが「TQMサークル活動」です。「明るく、楽しく、有意義に」を合言葉に「職場の問題解決に取り組みながら、質改善の考え方や手法を学ぶ」ことで、改善文化の醸成を目指しています。これまでに97サークルの登録があり、業務改善や診療、患者サービスの質向上など、様々な分野で、それぞれの目標に向かって活動を行っています。



▲他の病院から多くの方がご参加くださいました



▲工夫をこらした発表

1月14日には、当院講堂で第8回TQMサークル活動発表大会を開催し、5サークルが成果を発表しました。いずれも甲乙つけがたいレベルの高い発表でしたが、審査の結果、最優秀賞に手術準備時間を短縮した**手術部**が、優秀賞に多職種カンファレンスの充実を図った**リハビリテーション部**が選ばれ、秋に開催される「医療の改善活動 全国大会」に出場します。また、大会参加者の投票による「きらり賞」には、患者さんの待ち時間短縮に取り組んだ**内視鏡室**が選ばされました。



▲手術部が最優秀賞をとりました

さて、当院の改善活動は、この発表大会が終わりではなく、新たなスタートになります。これからもPDCAサイクルを回し続け、当院の理念である「県民の安心の拠り所」を実現すべく精進を続けて参ります。

副院長・改善推進本部長
高石 和



診療科紹介 呼吸器内科



呼吸器内科は、その名のとおり呼吸に関係する気管支や肺の病気を担当しています。咳が続く、呼吸が苦しい、胸の痛み、発熱などの諸症状や胸部レントゲンの異常をきっかけに、気管支喘息、COPD（肺気腫を中心とした慢性閉塞性肺疾患）、肺線維症、肺炎及び各種感染症、肺がんを含めた胸部腫瘍などを最新の機器を用いて診断し、その後の治療に繋げています。特に肺がん、気管支喘息、肺線維症は、新薬の登場により、内科的薬物治療の進歩は目覚ましいものがあります。当科は、呼吸器内科専門資格だけでなく、アレルギー専門医、感染症専門医、腫瘍内科専門医などの専門性も兼ね備えたスタッフで患者さんに最適な方針を提供するとともに、呼吸症状に限らず全人的に患者さんに関わる様々な問題にも対処することを心がけています。

気管支喘息に新しい治療が加わりました！

気管支喘息は、様々な刺激により炎症を起こした気管支が過敏状態になる病気で、発作を起こすとともに辛い呼吸困難となります。この十数年で吸入ステロイド薬が普及することにより、多くの患者さんは大きな発作を繰り返すことが無くなりましたが、一部の患者さんは適切な吸入治療を行っても安定が得られない場合があります。

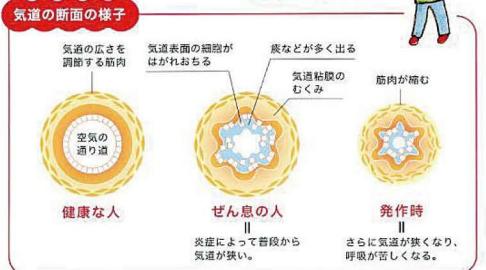
近年、新薬の抗体製剤（抗 IgE 抗体、抗 IL5, IL5 α 抗体、抗 IL4/13 抗体など）が登場し、難治性の喘息患者さんへの投与により劇的な効果が得られ、快適な生活を送る患者さんが増えてきています。使用に関しては、呼吸器専門医による適切な評価が必要ですので、かかりつけ医とご相談のうえ、当科スタッフまでご連絡ください。

ぜん息の人の気道

普段発作がなくても、
ぜん息の人の気道には常に炎症が起きており、
非常に過敏になっています。

そのため、健康な人では感じない
ちょっとした刺激にも敏感に反応し、
狭い気道がさらに狭くなり、
呼吸が苦しくなります（発作）。

ぜん息の人の気道（空気の通り道）をのぞいてみよう！



吸入ステロイド薬、 気管支拡張薬が最も重要



注射薬



生物学的抗体製剤、
アレルゲン免疫療法

喘息の管理

原因・アレルゲンの回避



合併症の管理



当院の
ドクターを
紹介します

ドクターズカルテ

消化器内科 宮田 英樹先生

Doctor



2012年4月より勤務している消化器内科の宮田です。松山市出身で、大学は札幌医科大学を卒業後、広島大学で研修を受け、10年間広島に在住していました。医師11年目に福島県会津中央病院へ異動し6年間勤務しました。東日本大震災の翌年に当院に転勤してきました。専門は、胆膵疾患ですが、他の臓器の疾患と比べて早期発見が困難であり、かつ難治性疾患の多い分野であると思います。

趣味は、格闘技観戦とスポーツ観戦です。特にスポーツでは高校野球が大好きで、甲子園大会は欠かさず見ています。同じ世代には、PL学園の立浪選手、片岡選手、帝京高校の芝草宇宙選手などがあります。今年も坊っちゃん球場に応援に行く予定です。今後ともよろしくお願ひいたします。



当院の
研修医を
紹介します

Resident

1年次研修医
堀元 絵梨花先生

仕事以外の過ごし方は?

同期の研修医と出かけたり、テレビを見たりして笑うことが、良いリフレッシュになっています。また、動物が好きなので、休日に水族館や猫カフェに出かけることも楽しみの一つです。

日常気をつけていることは何ですか?

「なぜ」を考える姿勢を大切にしています。実際の診療は教科書通りにいかないこともあります。その原因や解決策を考えていくことで、日々勉強させていただいている。

今後の目標は何ですか?

患者さんそれぞれの人生観に寄り添える医師でありたいと思っています。試行錯誤の毎日ですが、医療スタッフの方々に支えられ診療にあたっています。残り1年の研修を通して、日々、医師として成長を重ねていきたいです。



▲1年次研修医と旅行で訪れた金比羅宮での1枚(本人真ん中)



▲腎臓内科でエコーを教えてもらっている様子(本人左側)



病院のお仕事 臨床心理室



NICU にて

赤ちゃんが急に入院となり不安を感じているご家族に寄り添いながら、赤ちゃんの成長と一緒に見させていただきます。

発達検査

NICU を退院したお子さんの成長を確認します。



臨床心理室では、室長 穂吉新生児内科主任部長のもと6名の臨床心理士が、当院で治療を受けている患者さん（主に新生児内科、産科、小児科）の治療や病気などの心理的な不安を少しでも和らげるお手伝いができるよう、「こころのケア」を提供しています。

入院患者さんの場合、赤ちゃんがNICU（新生児集中治療室）に入院しているご家族や小児病棟に長期入院しているお子さんとそのご家族、産科病棟に入院している妊婦さんなどが、安心して入院生活を送れるよう、患者さんに寄り添った心理支援を行います。また、主治医からの依頼に基づいて、成人患者さんの心理支援も行っています。



外来患者さんの場合、心身症などで通院している学齢期のお子さんとそのご家族のカウンセリングを主に行ってています。また、NICU を退院したお子さんたちへの発達検査も実施しており、お子さんの成長をともに喜び、心配ごとを軽減できるように活動しています。

外来カウンセリング

お子さんには心理療法を行こともあります。



主治医との カンファレンス

患者さんの様子や生活状況をもとに今後の治療方針を相談します。

病気を患うと、心理的な不安は誰にでも起こります。

お話しすることで気持ちが整理でき、悩みの解決や軽減につながる場合がありますので、一人で抱え込まず主治医にご相談ください。

必要な場合には、専門家である臨床心理士がサポートいたします。



がん相談支援センターをご存知ですか？



当院では、がんに関する相談窓口として、がん相談支援センターを設置しています。当院の通院・入院の有無にかかわらず、がん患者さんやご家族の方からのご相談をお受けしています。治療や療養先の選択などでお悩みの方、経済的に心配な方、漠然とした不安をお持ちの方など、患者さん・ご家族だけで悩まず、どうぞお気軽にご相談ください。

相談内容に応じて看護師や医療ソーシャルワーカーがお話を伺います。相談者の方が、何らかの一歩を踏み出せるような支援を心掛けています。どうぞ、お気軽にご利用ください。



▲各種がんに関することや、がん患者さんとそのご家族のための県内サロンのご案内など、様々なパンフレットを揃えていますので、ご自由にお取りください。
(左：2階がん相談支援室、右：1階図書コーナー)

予約・お問い合わせ

受付：8時30分～17時（平日のみ） 電話：089-947-1165（直通）・089-947-1111（代表）内線：7221



当院のがんに関する治療方針や実績などの情報をホームページに掲載しています。

転入・転出医師 (R元.12.1～R2.3.1)

転入

所属	氏名	専門
産婦人科	今井 統	専攻医
眼科	立花 亮祐	専攻医

転出

所属	氏名
麻酔科	首藤 聰子
産婦人科	松尾 環
眼科	奥嶋 奈美



安全・安心でおいしい食事をお届けする 日米クック

日米クックでは、365日入院患者さんの朝食・昼食・夕食・おやつなど、1日約1,300食を提供しており、当院の管理栄養士が作成した献立をもとに、食材の仕入れ・調理・盛付をし、各病棟へ配膳しています。

厨房では、20歳代～70歳代までの（総勢60余名）幅広い世代が一緒になって働き、毎日が活気にあふれた職場です。

食事は一般食と治療食があり、病態によって献立が異なるため毎回約20～30種類のお食事をお届けしています。その中でもアレルギー食には細心の注意を払い、特に情報収集と確認に時間をかけています。

飲み込むことやかみ碎くことが困難になった患者さんに少しでもおいしい食事を提供するため、「形があり、箸やスプーンで切れるやわらかさ」に配慮した「嚥下食IV」や「やわらか食（仮称）」、新食種の開発に努めています。

また「給食をおいしくする会」において、新メニューの提案や既存メニューの食味改善に向け取り組んでおります。

これからも安全・安心でおいしい食事を、従業員一同心をこめて提供してまいります。



▲元旦料理



▲日米クックスタッフ



▲配膳前 確認作業



▼調理風景



▲嚥下食IVメニュー



転倒予防のために生活習慣を見直そう！

医療安全
管理部だより
No.42

最近、転んだりしりもちをついたりしたことで、当院の外来を受診される方が増えています。状況をお伺いすると、「足が十分上がっていないかったためにつまずいた」「声をかけられ、振り向こうとしてバランスを崩した」「椅子から立ち上がりろうとして、ひざ折れてしまった」など、特別なことをしていたわけではなく、日々の生活の中で起こりそうなことでした。これらの原因は、筋力やバランス能力の低下にあります。では、なぜ低下してしまったのでしょうか？



みなさん、車社会になって歩くことが少なくなっていますか？どこに行くにも車を使ってしまうことが、筋力低下の一つの原因かもしれません。また年齢を積み重ねることでも筋力は低下していきます。意識的に運動しなけれ

ば、足腰は弱ってしまうのです。



テレビで放映しているテレビ体操を活用するとか、目標を決めて歩くようにするなど、自分自身で楽しみながら運動するようにしてみてはいかがでしょうか。

転ぶと、骨折をして寝たきりになってしまいますことがあります。また、寝たきりにならなくても、骨折を治療している間、身体を動かさないことで筋力が落ちてしまい、リハビリをしても以前のように動けなくなってしまうこともあります。

生活の中に『運動する』という項目を入れることで、人生を楽しく過ごせるようにしてみませんか？



連携医療機関紹介～第17回～

医療法人 松山ハートセンター よつば循環器科クリニック

- 所在地 松山市南江戸4丁目3-53
- TEL 089-965-2211 ■FAX 089-965-2212
- 診療科目 循環器内科・心臓血管外科・放射線科・麻酔科
- 病床数 19床
- 外来診療時間 休診日 水曜午後・土曜午後・日曜・祝日

	月	火	水	木	金	土	日
9:00～12:00 (初診受付は9:00～11:00)	○	○	○	○	○	○	×
14:00～18:00 (初診受付は14:00～17:00)	○	○	×	○	○	×	×

【病院の概要・特徴】 平成18年に開院した19床の有床診療所です。循環器内科と心臓血管外科がタッグをくみ、心筋梗塞や狭心症など、心疾患の治療に取り組むクリニックです。また、地域の生活習慣病などの患者さんには、かかりつけ医の役割を担い、診療しております。

当院は、循環器内科に、阿部院長・藤枝副院長・寺谷医師の3名。心臓血管外科は、圓本医師・横山医師の2名。放射線科は、東野医師。麻酔科は、阿部裕美子医師。以上、7名の常勤医師が早期発見・早期治療を目指し、診療しております。地域の医療機関と密に連携をとり、患者さん一人ひとりの症状に寄り添った診療を、スタッフ一同心がけております。



医療法人 福井ウィメンズクリニック

- 所在地 松山市星岡4丁目2-7
- TEL 089-969-0088 ■FAX 089-958-3100
- 診療科目 産科・婦人科
- 病床数 14床
- 外来診療時間 休診日 木曜午後・日曜・祝日

	月	火	水	木	金	土	日
9:00～12:00	○	○	○	○	○	○	×
14:00～18:00	○	○	△ 手術日は休診	×	○	△ 受付16時まで	×

【病院の概要・特徴】 当院は2001年9月に開院した有床診療所です。今年で20年目を迎えます。生殖医療専門医による高度不妊治療(体外受精)・不育症治療を中心に、婦人科内視鏡技術認定医として腹腔鏡、卵管鏡、子宮鏡手術による不妊治療にも取り組んでいます。

これまで1万件を超える体外受精を施行し、約4千例の方が妊娠されております。最近では無精子症などの男性不妊治療も行い、2014年12月にmicro TESE(精巣内精子採取)による県内では初の出産例を得ています。またソフロロジー法による分娩も扱っており、県立中央病院など地域周産期の基幹病院と連携しながら、安全かつ親身に患者さんに寄り添う医療を心がけています。近年、専門医制度が進む中、県立中央病院ならびに愛媛大学医学部附属病院の産婦人科専攻医の研修連携施設として協力させていただいております。



当院は、平成22年10月29日に「地域医療支援病院」の承認を受けています。

このコーナーでは、紹介・逆紹介によって連携している医療機関を随时ご紹介させていただきます。
(紹介順序につきましては、順不同ですのでご了承ください。)

お読みいただきありがとうございました！次号もお楽しみに！

